

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0571213958		
法人名	社会福祉法人 こまくさ苑		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 田沢の家		
所在地	秋田県仙北市田沢湖生保内字上清水698		
自己評価作成日	平成28年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成28年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の持っている力を引き出し、認知症の進行をやわらげ、充実した生活が送れるようにしていきます。  
 ご利用者様と職員と一緒に生活する場となり、常に個人の思いを聞き、寄り添いながら笑顔で明るい安心感のあるホームで、皆様を支えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

その人なりの生活のペースを尊重しつつ利用者ができることを分担し、その一役を担うことで生き生きと楽しく日常を送ることができるよう支援されています。日々の実践の中で困ったことが起きた時には、理念作成時の思いに立ち戻り、職員全員で話し合って解決しながら利用者が過ごしやすい環境となるよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	わかりやすく、納得して実践ができるように事務所内へ理念を掲示。理念に基づいて利用者様の状況を確認しながら、職員間の連携を、申し送りやミーティングで共有、連携を密にして実践している。	利用者の生活を理解しながら職員が無理せず、自然にサービス提供できるよう、理念の実現に向けて努力されており、職員のステップアップにも繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に利用者様と職員が参加。学校行事に招待をうけ交流を図っている。ボランティアを随時受け入れ交流を行っている。顔馴染みの関係性ができるようにしている。	小中学校や地域で行われる行事に参加し、法人の夏祭りでも地域のボランティアや子ども達と交流されています。住宅地から離れている場所にありながら、地域住民や子ども達と触れ合える機会をつくっています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症何でも相談所や認知症サポーター講座に参加し、実践の報告の機会をもつようにしている。広報でも認知症について伝える場はあるが、地域への貢献までは至っていないと思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際のサービスが見えるような形で、会議開催の場所を各事業所の食堂やホールで開催している。行政、地域住民、民生委員や家族様より、意見をいただき、防犯、防災対策など、今後の検討課題をいただいたりし、ミーティングや申し送りで報告、サービスの向上に活かしている。	参加者から意見や提案が積極的に出され、会議が運営に活かされています。会議内容は職員に伝えられてサービスに活かせるよう取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括ケアセンター主催の交流会やミーティングに参加し、困難事例の検討や意見交換を行うようにしている。	地域包括ケアや認知症カフェ開催の実現に向けて話し合う等、連携を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っている。リスクについて家族説明を行い、職員へも説明。情報を共有し、互いが理解をし、利用者様が不快な思いをしないよう対応している。行動や言動に合わせ、付添いや手引きで対応。窓は自分で開閉できる方は任せている。玄関はセンサーでの対応となっている。	マニュアルを整備し、研修を行って職員の理解を深めています。利用者の行動を見守り、拘束をしないケアに取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や報告会に参加。特に言葉使いや声のトーンに気をつけるようミーティングや申し送りで周知徹底を図っている。勉強会へも参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用にあたる例はないが、本人や身元引受人等、関係者と連携をとり、個々の状態に合わせ対応。必要が生じた際に制度活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、施設見学、入居利用の案内を渡したり、契約書を事前に確認いただき、質問や相談に応じるようにしている。契約時、再度口頭説明を行い、理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに意見箱の設置をしている。契約書へ外部相談場所の表示をしている。また、計画書モニタリング時、意見、要望欄を設け、何でも記入いただけるようにしている。	運営推進会議や面会時に聞き取りをしています。家族には遠慮があることを理解されており、意見、要望用紙を送付する際に表出しやすい工夫をする等の検討をされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内では定期的にミーティングを開催。意見や提案を話し合う機会を持っている。代表者との間は、随時、中間職を通しての話となっている。	日常的に話し合っケアに反映されており、法人本部に諮る際には管理者を通じて行われ、職員の意見が反映できるよう取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望をとる等勤務状況は良い環境にある。仕事にやりがいがあり、職場環境も良いが、労働と給与の相乗効果に期待したい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修開催の情報を回覧したり、職員一人ひとりにあった研修をすすめ参加できるようにしている。地域密着型事業所内での勉強会や報告会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種交流会やネットワークづくりの研修会に参加し、情報交換やケース検討等を行い、施設内で報告会を開催。向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学を受け入れたたり、訪問調査を行い、必要があれば訪問回数を増やし、馴染みの関係性を築きながら、話を聞き不安の解消に努めている。また、日常会話の中から、要望、相談をいただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込みが入った時から相談には応じている。入居前の訪問調査時、話を聞いたたり、契約書の事前配布により、不安なことへの相談にのり良い関係ができるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状態や入居以前の生活環境に合わせて、家庭的な雰囲気大切に、本人ができることを尊重し、職員と共に充実した生活が送れるようにしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活状況、身体、精神状況を電話や面会時に伝え、必要時は、面会、外出、外泊、受診の同行を依頼するなどより多く過ごしてもらえ時間を大切に、家族様の都合に合わせてられるようにしたり、共に支えあえる関係性を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ行ったり、隣近所、親類の方との面会、受診時に会う方々との会話を大切にしている。職員との会話でも、住んでいた所や馴染みのある方々の話を聞く等取り入れている。	家族や親類、昔からの知人がホームを訪れ、面会時間に拘らず臨機応変に対応されています。花の株を増やし、娘に分けてあげるのを楽しみにしている利用者もおられ、それぞれの関係継続の支援に努めています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、身体レベル、精神状態に合わせて、トラブルがないよう見守りや会話を取り持つことを行い、つながりや良好な関係性が維持できるようにしている。共同作業やレクリエーション活動を通して助けあえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居時、訪問や相談に応じるように努めている。必要に応じては、法人全体で支援できるようにしてる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中から利用者様の気持ちや考え方に配慮、会話の中から希望や意向を聞けるように努めている。家族様からの情報を大事にし、その人らしい生活ができるように支援している。行動の中からできることをみつけるようにしている。	日常の会話や行動から一人ひとりの思いを把握できるように努め、記録に残している他、口頭で職員に伝えられています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時にサービス利用状況の確認を行ったり、訪問調査時に生活歴や習慣となっていること等を情報を集め、入居後も継続した対応や、言動、行動の観察を行い、尊重した援助ができるようにしている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや、行動の観察により、無理のないような過ごし方や、本人なりきの生活が送れるように支援している。自分で行うことは行っていただけるような声かけや見守りを行っている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング、申し送り、担当者会議で随時出された課題を解決できるよう話し合っている。また、家族様から、面会時や、書面にて意向や要望を確認させていただいたことを計画へ反映させるようにしている。	3~6ヶ月毎、状況に応じて随時見直しされています。職員全員で話し合い、家族にも評価していただいて介護計画に反映させています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を管理日誌や申し送りにて共有。ミーティングや担当者会議にて話し合い、計画の見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校行事への参加や敬老会や盆踊り大会など地域で開催されることへ参加し楽しんでいる。買い物や行楽に出かけたり、気分転換も兼ね支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態によっては本人の希望で受診。時に家族様からのご協力もいただき本人の満足のいくように対応している。歯科医の往診もあり、相談が行いやすい。家族様が受診対応くださる際は、状態の説明を行い、医師へ報告、相談いただけるよう支援し、お互いが納得できるようにしている。	本人、家族の希望を大切に対応されています。歯科、薬局、法人内の看護師とも連携して支援されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要が生じた際は、隣接する介護老人保健施設看護師へ状態を的確に伝えるようにしている。受診の必要性があった際にも対応できるようにしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、面会や家族様との連携を密に行い、状態の把握や、意向、相談の機会をとっている。病院内の看護師や連携室と情報の交換を行ったりしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や、状態の変化時等、随時意向の確認や対応についてホーム内のできることをはっきりさせ、話し合いを行い、法人全体で支えていくことを伝え、状態に合わせて対応させていただいている。	重度化した場合は法人間で対応することを入居時に説明し、理解いただいています。状態の変化に伴って家族と再度話し合い、法人看護師とも連携して対応されています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を全職員が受け、救命措置がとれるようにしている。また、病歴や普段のバイタルを把握しておくことを行い、緊急時に備えるようにしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定したり、日中、夜間と別れて避難訓練を実施し、利用者の安全を図られるようにしている。防犯体制についても話し合いがなされている。	運営推進会議で地域から積極的な意見が出され、防災について対策を話し合われています。法人合同避難訓練は定期的実施されており、ホーム独自で訓練を行うことも検討されています。	避難先を確保して迅速かつ安全に避難できるよう、マニュアルに基づいて訓練を重ねることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話をよく聴き、一人ひとりの性格や言動、行動を把握し、個々の意思を引き出せるようにし、同調や本人の意に沿ったような対応や声かけを行っている。	一人ひとりの性格を理解し、その人のペースで過ごせるよう理念に基づいた対応を心がけています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話の傾聴を行ったり、行動の見守りにより、なるべく自己決定ができるようにしている。また、声かけも本人が話したり、行動がしやすいような声かけをしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や入浴日の変更を行ったり、他利用者様と時間が合わなかったりする方も、その人なりのペースで行動や生活ができるように支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の必要性に応じて対応。化粧品の購入や美容室へ行ったりもしている。季節や好みに合った服選びを一緒に行ったりしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事にあった献立や楽しんで食事ができるよう弁当を作ったりしている。食事の形態や好みに合わせての提供もしている。一緒に食事を作る、食べる、片づけを行うなど共に暮らしている感じも大事にしている。	無理強いせずに行えることを自分の仕事として生き生きとお手伝いされています。ドライブの際の夕食や行事食でも楽しみに繋がるよう企画されています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックを行い、身体状況や摂取状況を確認している。好き嫌い等も把握し提供をしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方は自分で行っていただいているが、食後行うよう声をかけている。義歯洗浄、消毒を行っている。また、口臭や歯茎等の炎症、不具合等歯科医往診により口腔ケアを行っていただいたり、指導、治療をいただき、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行動に合わせて排泄への誘いを行ったり、時間で声かけを行い、失禁を少なくし、自分でできるように、衣類やパットの準備をしたりしている。個々に合わせてポータブルトイレを使ったりしている。	個々の状態に応じて排泄用品を使用し、職員が時に確認しながら清潔管理されています。本人の意思でポータブルトイレを使用している利用者もおられます。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、個々に合わせた下剤内服を行っている。また、食物繊維や乳酸菌、水分等が摂れるようにしている。散歩や軽運動、体操をレクリエーションに取り入れている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日や時間を決めて実施しているが風呂に入らないことがないよう入浴の声かけや本人の状態をみながら、個々の入りたい時間やゆっくり入れるよう自分なりの入浴の仕方を尊重している。	その人によって入浴日が大体決まっていますが、希望を聞き、拒否される方もあることから調整しながらその日の状況に合わせて支援されています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や生活パターンに合わせて就寝や休息をとっていただいている。不穏時や眠れない時には、対話や安心して休めるような対応をとっている。精神的に不安定さが見られる時は担当医と相談、処方されている眠剤を使用しぐっすり休めるようにしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の報告を密に行う。処方箋をカルテに添付。内服に変更がある際は申し送りを行うこととし、情報を共有している。症状の変化に気をつけ、医師や看護師、場合によっては薬剤師との連携を図れるようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできることを尊重した作業を行っていただいたり、分担して行っていただいたりしている。好きなレクリエーションを楽しんだり、コーヒータイムや畑作業などをすることもある。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所の状況により、個々の希望にそっての外出には対応することは困難である。ホーム周辺の散歩や四季や行事に合わせた外出を計画、実施。気分転換も兼ね家族様との外出の支援を行っている。	知人と逢うことができることから地域行事や法人のお祭りに出かけ、ドライブや外食、食材の買い物に誘ったりしてできる限り外出の機会をつくっています。家族の協力も得られています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人持ちのお金に関しては、トラブルやしまい忘れがあり、管理ができないとしているが、力量に応じて自己管理している方もおり、電話や外出時買い物をしていく方もいる。事業所で買い物に出かけ、職員が付き添いながらお金をつかう機会をもっている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話の利用や、ホーム内の電話をとったり、かけたりしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を育てたり、季節にあわせ装飾品を変えたり楽しんでいる。ホーム内の温度調節を細目に行い、心地よく過ごしていただけるようにしている。トイレ巡回やホーム内の清掃、衛生管理を行っている。	窓から見える風景から季節の移り変わりを感じ取ることができ、ホーム内は清潔に管理されています。使用中かどうか認識できるように、使用していない時はトイレの入り口を開けたままにしています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座って、気の合った方同志で会話を楽しんだり、好きなことをする時は、食堂にて行ったり、自由に使ってもらっている。狭いながらに畳の場所では、作業を行ったりしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の作品を掲示したり、観葉植物を育てたりしている。随時、使い慣れた物や家族が持ってきてくれるものを受け入れ使ってもらえるようにしている。	花の好きな方は居室に花を活け、育てています。使い慣れたものや好みのものを持ち込み、一人ひとりが自分の居場所として使っています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々にあった歩行補助具の使用や、点検を行い、安全に使えるよう支援している。場所がわかるように使い慣れた言葉で表示したり、衣類や履物、自分で行えるような物の準備を行っている。		